

Japan Chapter GOVERNOR'S NEWSLETTER



ACP
AMERICAN COLLEGE OF PHYSICIANS
INTERNAL MEDICINE | Doctors for Adults

Spring 2005

Kiyoshi Kurokawa, MD, MACP
Governor, Japan Chapter

開設2周年を迎えた American College of Physicians 日本支部

Governor 黒川 清



American College of Physicians (ACP) Japan Chapter が開設されて2年が経過した。本年4月8日(金)には日本内科学会、認定内科専門医会のご協力を得て、大阪で第2回の総会/講演会を開催することができた。去年の発足時の第1回の総会にも出席していただいた ACP 理事の Robert B. Gibbons 先生(いうまでもないが松村先生の言う「メジャーリーガーの一人である」と、

千葉県亀田総合病院で日本人医師の教育、研修に大いに貢献されている David H. Gremillion 先生をお迎えした。ACP の動向、また Gremillion 先生による Case Study がハイライトであったといえよう。興味ある、いくつかの症例は会場の熱気と参加を奨励して楽しかったと思う。

また、この一年で新規会員数は 100 名を超えて増えたことは会員の皆様のおかげであり、素晴らしいことである。日本でも卒後臨床研修必修化が導入され、若い医学生や研修医が臨床の面白さ、楽しさに目覚めつつある現在、従来の日本の医学教育、臨床研修、さらには医療制度のおかしなところが明らかになりつつある。これからの医師の育成、研修にかかわるすべての医師の社会的責任が見られているし、問われている。米国は医療制度に多くの問題を抱えているが、日本も別の意味で問題を抱えている。生活主観も変化し、高齢社会も迎えて医療制度はどの国でも問題となっている。しかし、米国の医師育成の制度には参考にすべきところは多い。これからの日本の医師育成にも参考にありたいところは多い。ここは謙虚に学ぶという態度が大事であろう。ACP 日本支部がどのように貢献できるかを皆様で考えてほしい。

つづいて4月11日(月)から Kuala Lumpur へ一日国際会議に出席、すぐに夜の便でたつて、ソウルのインチョン空港経由で、13日朝に San Francisco 到着。ACP の年次総会での Governor の会合に何とか間に合った。上野文昭先生が私の代理で第一日目から出席していただいたがそこで合流し、日本支部の活動が特にコメントされていたのが大変嬉しかった。これも皆様のおかげです。14、15、16日は、Convocation、日本支部のレセプション等々、楽しく、また勉強をさせていただいた。Annals の編集長の Sox 先生との会談、また、日本でおなじみの Laurence Tierney 先生や William Hall 先生(この方たちも松村先生の言う「メジャーリーガーである」)もレセプションに参加していただいたのも収穫であった。開催期間中の San Francisco は快晴、最高の天気でした。皆様には大変ご苦労様でした。

新たにフェローになった方には今年は是非一人は新しい会員をお誘いください。また、一人ひとりが何ができるかをよく考えて、この日本支部をどう成長させ、日本の内科医の教育、研修、診療にどのように生かしていけるのか、考えてできる範囲で実践、実行してください。また、私たちの活動に積極的に発言し、参加してくれることを期待しています。

ACP 日本支部第2回総会・講演会は、日本内科学会総会第2日目の4月8日 14 時から大阪国際会議場 10 階 1003 号室にて開催された。昨年に引き続き、ACP 本部より Treasurer 及び Regent の Robert B. Gibbons, MD, FACP に参加して頂いた。参加者は 157 名であった。

最初に黒川清 Japan Chapter Governor から、積極的に若い医師の ACP 活動への参加を誘って ACP 日本支部を更に発展させようとの挨拶に引き続いて、Gibbons 先生から ACP 日本支部の急速な発展に対する賛美のご挨拶がなされた。

引き続き、パネル・ディスカッション“Clinical Clerkship System -USA vs. Japan”が、渡邊毅理事と上野征夫先生の司会で行われた。まず Gibbons 先生が、米国における“Medical Student Clinical Clerkship System”について基調講演を行った。これを受けて黒川先生が、“Problems and Counter Move for Clinical Clerkship System in Japan”というタイトルで講演された。いくら本を何冊読もうがビデオを何本見ようがテニスはうまくならない、まずは実際に病棟で患者さんを診療することが重要である、上級生から学んだことを下級生に指導することでさらに知識が増し学習効果が上がる、現在は図書館に行かずとも誰でもインターネットを利用できグローバルスタンダードな知識を得ることができる、インターネットで世界を知る必要がある、と熱のこもったスピーチであった。基調講演終了後は、フロアからも日本と米国の違いについて多くの質疑があり、活発なディスカッションがなされた。

15:45 より David H. Gremillion, MD, FACP (亀田総合病院卒後研修センター教育専任医師)によってケース・スタディが行われた。簡潔明瞭に病歴が呈示された後に、いずれも知っておれば一目瞭然“ichimoku ryouzen”と言えるキーとなる皮疹やレントゲン写真、CT 写真が示され、会場の参加者に鑑別診断を求めた後に日米の分化の違いも交えて簡潔な解説がなされた。大変魅力あるケース・スタディであり、感銘を覚えたとの声が多く聴かれた。

16:45 から Gibbons 先生から“College Update”と題して、ACP は世界最大の内科専門の機構である。ACP の使命は会員が優れた医学を実践し、プロフェッショナリズムを育てることによって国民へのヘルスケアの質を高めることであることなど、ACP の活動方針や現況が話された。

17 時 15 分より Business Meeting が黒川 Governor, 上野 Vice President の司会で行われた。活動報告では、1)支部活動報告(2003-2004):24 人の会員がフェローシップに昇任し、45 人の会員が新たに選出された。昨年 4 月第1回目の支部講演会を開催し、Health and Public Policy Committee 委員長が ACP 本部で開催されたトレーニングプログラムに参加した。2)決算報告 2003-2004(7 月-6 月):繰越金 15.7 万円, 収入計 148.8 万円, 支出合計 117.5 万円, 次期繰越金 47.1 万円。3)支部活動計画 2004-2005:39 人の新フェロー, 120 人のメンバーが選出され、2005 年4月1日の会員状況は、マスター1 名、フェロー160 名、名誉フェロー8 名、メンバー323 名、計 492 名となった。今後、多くの若いドクターが ACP の特典を安い会費で利用することができるように、専門医になる前の研修医やレジデントには Associate member として、また学生には Student member として入れるチャンスを与えるようにする予定である。黒川現初代 Governor の4年間の任期が6月一杯で終了するため、次期 Governor を決めるべく選出を開始している。4)2004-2005、2005-2006(7月-6月)予算:2004-2005 の年会費は 50 ドルであり、次期も同じ額としている。全予算は約 500 万円となる、との報告がなされた。17 時 30 分に終了し、懇親会場へと移動した。



Dr. Robert B. Gibbons 上野征夫先生, 渡辺毅先生 Dr. David H. Gremillion 黒川先生 上野文昭先生

レセプション報告

Credentials/Membership Committee 委員長 朔啓二郎

レセプションは、平成 17 年 4 月 8 日午後 2 時から 3 時間半にわたる ACP-Japan (J) Chapter 総会終了後、大阪国際会議場にて行われた。ACP 理事の Robert B. Gibbons 先生、今回 CPC を担当された David H. Gremlion 先生をゲストに、黒川清支部長の挨拶、元日本内科学会理事長で ACP-J Chapter 設立をサポートしていただいた木村哲先生の乾杯のご発声で和やかにはじまった。現在、マスター 1 名(黒川清ガバナー)、フェロー 160 名、名誉フェロー 8 名、メンバー 323 名のうち、約 100 名の参加があった。黒川支部長のスピーチの中で、50 年前に想像できなかった事象が、現実のものになる様々な例が紹介されたが、わずか、2 年でここまで大きくなった J-Chapter もその一つだと実感した。ACP-J Chapter に期待する活動の一つに、医学・医療の国際的標準化を目指すことがあるが、CPC での活発な議論の展開は来年もプログラムに入れてほしいとの会員の意見がレセプションで多く聞かれた。メンバーシップ委員会としては、Member および Associate Member のリクルートも積極的に計画し、本来のカレッジの意図に沿った交流を広げていきたい。今年は会場からの眺めがすばらしく、さらに華やかなレセプションになった。



ACP-Japan Chapter — 前夜祭

Credentials/Membership Committee 委員長 朔啓二郎



ACP-J Chapter の理事会(平成 17 年 4 月 7 日開催)のメンバーは、黒川支部長、石橋大海副支部長、上野文昭副支部長、渡辺毅理事、小林祥泰理事、木野昌也理事、米倉修司理事、高林克日己理事と私ですが、Dr. Gibbons には、理事会にも出席していただき、ガバナーの選出規定、会員リクルートの方針、退会・復会規定におよぶ ACP の基本的な direction を数多くお伺いしました。理事会終了後、Dr. Gibbons を囲んで食事をしたときの写真です。大阪のすき焼き屋での楽しい一時でした。Dr. Gibbons はお酒は飲まれないこと、黒川先生の手帳の中にはお嬢様の写真があること等々、ちょっとした発見がありました。(写真:前列は黒川先生と Dr. Gibbons, 後列は上野先生と私)

今年もまた Annual Session に先立つ 4 月 12, 13 日に BOG Meeting (支部長会議) が開催され、黒川支部長が 2 日目に到着されるまでの間、日本支部を代表して出席することとなった。

7:00AM から始まる 2 日間にぎっしりと濃縮された今回の会議の主要テーマは、米国内の医療費支払いシステムに関する事項であった。米国の医療レベルが世界最高峰であることは疑う余地がない反面、複雑な支払いシステムの形成による歪が露呈していることは周知の事実であり、医療提供者、受給者、支払い者すべてが満足していない状況といえる。それぞれの観点から問題が提起され、討論が繰り返された。

諸外国のシステムに関する情報を収集し理解した上で今後の改善に役立てたいとの意向で、International Governors Breakout Session では米国外の支部長がそれぞれの国の医療費支払いシステムを紹介し、これをまとめたものが Workshop の資料となった。筆者も日本の保険診療システムにつき簡単なプレゼンテーションを行った。現時点で直接われわれに関係ないかもしれないが、医療費の高騰と医療資源の枯渇を考えれば差し迫った問題となる可能性は十分ある。ACP が単なる学術団体に留まらず、今後どのような提言をし、どのような行動を起こすのか興味もたれる。

また生涯学習と専門医再認定に関する議題、新しいメンバーのリクルートや現メンバーの保持に関する議題などが、前年から引き続き討議された。いかにして会員にとり魅力のある学会にするかという熱意と努力が現れていた。

2 日目の Business Meeting では、昨秋の BOG Meeting の議事録が承認を受け、今回の議案の修正や採否の討議がなされた。会議途中、マレーシアから直行された黒川支部長が紹介され、会場一杯の大きな拍手で迎えられた。熱心な討議の結果大幅に時間を超過した BOG Meeting は、優秀な実績を残した支部を表彰する Award Luncheon で締めくくられた。

正式な会議終了後に黒川支部長と共に Chapter Leaders Network Session に出席した。会員の Recruitment and Retention に関するプレゼンテーションと討論が行われたが、これは現在 ACP が最も力を入れているテーマであり、日本支部に対する高い評価は着実な会員数増加によると考えられる。今後もリクルートの努力を怠ってはならないことを痛感した。

他の支部と異なり日本支部は支部長自らがすべての会合に出席することが困難である。しかしこの現実が決して批判を浴びているわけではなく、許された状況の中での最大限の努力に対してむしろ好意的であるというのが代理として出席している筆者の実感である。日本支部に対する高い評価は発足以来の順調な成長に基づくものであることは上記の通りであり、彼らの好意に報いるためにも更なる発展が必要であろう。

新FACP授与式(Convocation ceremony)と日本支部晩餐会(レセプション)のご報告

Credentials/Membership Committee 前田賢司

今年のACP年次セッション及びFACP授与式(Convocation ceremony)は1996年以来9年ぶりにサンフランシスコで開催されました。開会式や授与式が行われたメインのホールには壇上にサンフランシスコの風景を模したセットと支部のある国の国旗が飾られていて、中でも中央近くの目立つところに日本の国旗が置かれていたのが印象的でした。

授与式は例年通り木曜日(14日)の午後に行われました。日本からの授与式参加者は2004年7月選出の先生方から浅野浩、古田栄一、若林靖久*の3先生、同じく10月選出の福田元、石田文宏、石井亜紀子、中元秀友、鈴木良知*の5先生、2005年1月選出の古家英寿、檜山桂子、北川昌之の3先生、同じく4月選出の今村昌幹先生、テキサス支部から能登洋先生さらに既選出で今回まで延期されていた山本典子、渡邊祐子、中島貞

男, 西郷正彦, 中村智樹*の5先生の計18人でした。(*は授与式のみ参加され翌日の支部レセプションは欠席された先生方) この他今年も支部長の黒川清先生が入場行進の先頭を切って歩いてくださいましたし, 副支部長の上野文昭先生も姿をお見せくださいました。

このあと場所を変えてACPの主催するインターナショナル・レセプション(私たちのように米国以外から参加された先生方とご家族のためのレセプション)が行われ, 日本から参加された多くの新FACPの皆さんが参加してくださいました。

今年の年次セッションで一番嬉しかったことはリピーターの先生方が増えたこと(東理, 遠藤正之, 樋口敬和, の3先生, それに私も)と自主的に参加された先生方もいらしたこと(会員の小山雄太先生, それに今回入会された聖マリアンナ医大の安田先生)でした。これからも毎年これらの先生方の数が増えて, さらに日米のパイプが太くなると日本国内に新しい風を送る大きな力になるのではと期待します。(加えて, 将来はACP年次セッションに参加すれば日本内科学会の単位も少し頂けるようになってくれればと願います。)

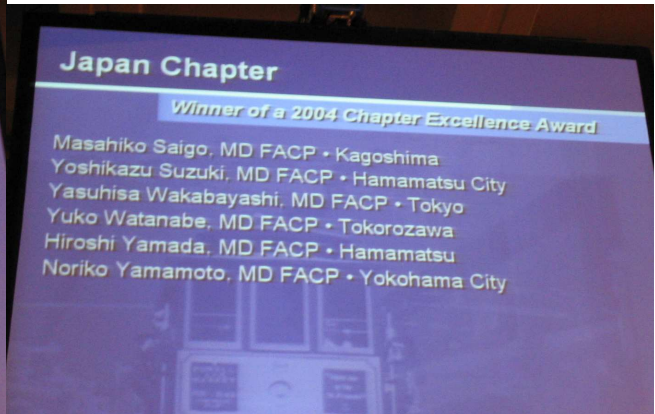
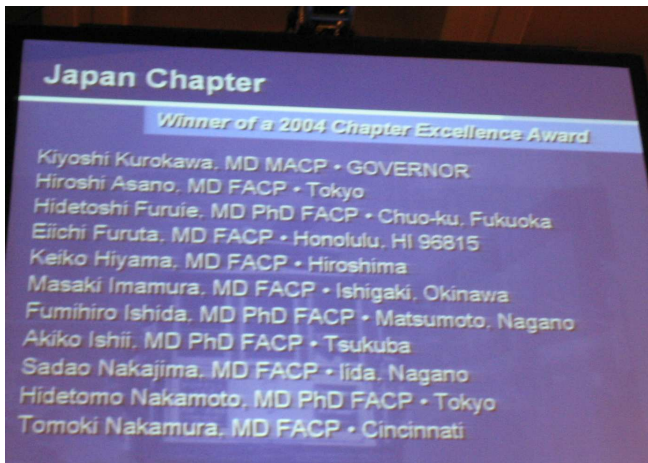
翌15日の金曜夜に年次セッション会場の北東に位置するレストラン「ブールヴァード」で日本支部の晩餐会(レセプション)が開かれました。上記の先生方とご家族, さらにACPからのゲストとして1998~99年に会長を務められ, 現在は「Annals of Internal Medicine」編集長のHarold C. Sox (MACP)先生, 2001~2年の会長を務められたWilliam J. Hall (MACP)先生, 「Current Medical Diagnosis & Treatment」の編集責任者のLawrence M. Tierney先生, さらにACP事務局のEve Swiacki様をお迎えし, 総計34名の大きな集まりになりました。会は黒川先生やゲストの先生方のお話に引き続いて新FACPの皆様も英語で自己紹介され, 和やかな雰囲気で行いました。いつまでも話し声が尽きなかったのは言うまでもありません。

最後に晩餐会の裏方をお手伝いいただいた小山雄太先生, 樋口敬和先生のお二人に感謝してご報告を終わらせたいと思います。

Convocation Ceremony



授与式参加者(敬称略): 浅野浩, 石井亜紀子, 石田文宏, 今村昌幹, 北川昌之, 黒川清, 西郷正彦, 鈴木良知, 中島貞男, 中村智樹, 中元秀友, 檜山桂子, 古田栄一, 福田元, 古家英寿, 山本典子, 若林靖久, 渡邊祐子



Japan Chapter Reception



ゲスト: Dr. Harold C. Sox, Dr. William J. Hall, Dr. Lawrence M. Tierney, Jr., Eve Swiacki

参加者(敬称略, 五十音順): 浅野浩, 東理, 石井亜紀子, 石田文宏, 遠藤正之, 小山雄太, 北川昌之, 黒川清, 西郷正彦, 中島貞男, 中元秀友, 能登洋, 樋口敬和, 檜山桂子, 古田栄一, 福田元, 古家英寿, 前田賢司, 安田孝, 山本典子, 渡邊祐子, ご家族の方々



Dr. Tierney Dr. Hall



黒川先生 Eve Swiacki さん Hall 先生

事務局からの連絡事項

・会費

2005-2006 年度の本部年会費は\$239.00, 日本支部会費は\$50.00 です。本部のホームページ上 <http://www.acponline.org> でクレジットカードにて会費支払いの手続きができるようになりました。手続きをする為には User ID と Password をご自分で設定いただく事になります。 <http://www.acponline.org/cgi-bin/register.pl> の URL から会員番号等を入力して設定していただけます。一度登録された後で ID と Password をお忘れになった場合には新しい ID と Password を再登録していただくようになっています。従来通り Check での支払いも可能です。今年は本部から Invoice の到着が遅れる等ご迷惑をかけ、申し訳ございませんでした。よろしくお願いいたします。

・Recruit-a-Colleague キャンペーン

2005年3月2日～2006年3月1日の期間中にお知りあいをご入会になりますと紹介者の次年度(2006-2007年)の本部会費が割引になります。一人ですと\$100,二人ですと\$200,三人ですと全額が割引になります。更に2007年San Diegoで開催されるAnnual Sessionへの招待券(登録、航空運賃、4日分の宿泊費)が当たる可能性があります。詳しくは本部ホームページhttp://www.acponline.org/college/misc/recruit_colleague.htm?hpにアクセスしてください。尚、日本からの入会者の条件はABIM取得者、ABIM受験資格者、または日本内科学会認定内科専門医であることです。入会申請書類は本部ホームページからダウンロードする事もできますし、事務局(acp@naika.or.jp)へご請求いただければ送付致します。簡単な申請書に記入していただき、事務局(日本内科学会内)に郵送していただくだけです。尚、入会申請者が紹介者のお名前を申請書に記載しなければキャンペーンの対象とはなりませんのでご注意ください。何かご不明な点がありましたら事務局(acp@naika.or.jp)までご連絡ください。皆様のご協力をお願い致します。

・ACP 日本支部年次総会・講演会・レセプション

2006年4月15日(土)午後に関西国際空港で開催予定です。講演のテーマ等のプログラムにつきましてご意見がありましたら事務局までお知らせください。

・ACP Annual Session 2006

2006年4月6日～8日にPhiladelphiaで開催されます。7月29日までに登録されますと\$499,1月31日までに登録されますと\$549,2月1日以降は\$619となります。12月31日まではキャンセル料がかかりませんので、ご参加をお考えの場合には早めのご登録をお勧めします。

・登録事項変更

ご住所やTel/Fax/E-mailのご変更は事務局(acp@naika.or.jp)までご連絡ください。直接本部にご連絡されますと、支部に変更事項が転送されてきませんのでご連絡等がうまく行かない場合があります。ACPでは現住所に基づき、自動的に支部への配属されます。海外へご留学等でご住所を移される場合には支部配属希望を出す事ができます。永住でなければ海外に住所を置いたまま日本支部に所属する事も可能です。詳しくは事務局にお尋ねください。

ACP 日本支部事務局 (担当 宮本晴子)

〒113-8433 東京都文京区本郷3-28-8 (社)日本内科学会内

Tel: 03-3813-5991 Fax: 03-3818-1556

E-mail: acp@naika.or.jp

Web site: <http://www.icim2002.org>